

わ が 街 わ が 故 郷

歴史文化と自然につつまれ進化つづける
『自動車用軸受の拠点 石部工場』

会社紹介

社名 日本精工株式会社 石部工場

住所 滋賀県湖南市石部が丘1丁目1番地

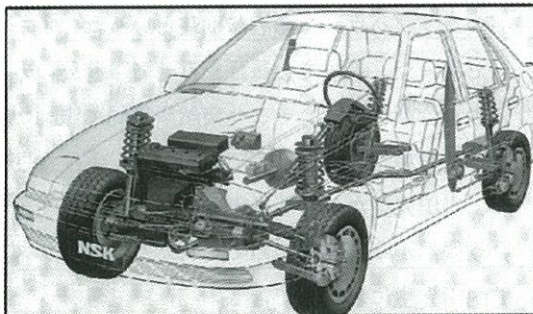


日本精工(株) 石部工場

1959年、歴史文化と自然豊かな石部の里に、西日本精工(株)石部工場が建設され、将来を託された軸受の製造が始まりました。10年後の1969年には日本精工(株)石部工場と改称され、自動車産業の発展とともに拡大を続けてきました。今日では、培ったボールベアリング技術を結集し開発された《ホイール用ハブユニット》や《自動調心クラッチリリース軸受》は、カー・テクノロジーの要求に応えるものとして高い評価を得ています。私たちの石部工場は、高品質で高信頼性の自動車用軸受製造に進化し続けています。



ホイール用軸受



自動車足回りの透視図



国内トップレベルの女子ソフトボール部

私たちの湖南省市 《旧石部町 旧甲西町》

2004年10月1日 新市発足

位置 滋賀県の東南部に位置し、大阪・名古屋から100km圏内にあり、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交流の拠点にあります。

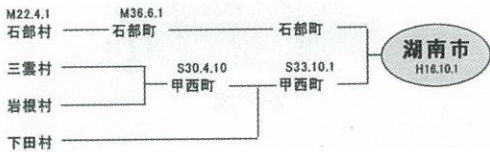


アクセス

面積 70.49km² (県土の1.75%)

人口 56,459人 (平成18年12月末現在)

変遷



琵琶湖の東南に地域の責任と権限により街づくりを進めるのに相応しい行財政規模を目指し、平成16年10月1日、旧石部町・旧甲西町が合併して新市『湖南省市』が誕生しました。湖南省市は、県下では豊かな自然と産業が栄える街として知られています。古くは近江と伊勢を結ぶ伊勢参宮街道として栄え、江戸時代には石部に東海道五十三次の51番目の宿場がおかれ、“京立ち石部泊まり”として栄え、街道の産業や文化が花開きました。

近年では名神高速道路開通によって、栗東・竜王インターなどを活用して、県下有数の工場群を誇る湖南工業団地が立地しています。また、国道一号線やJR草津線が地域を東西に走って

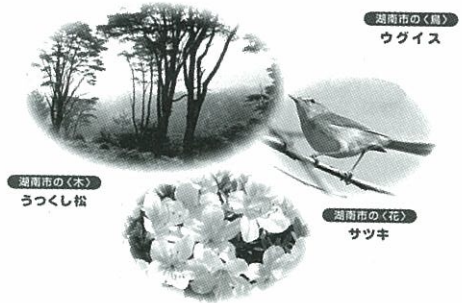
います。これらの交通基盤によって京阪神への通学・通勤に便利な立地となり、ベッドタウンとして宅地開発が進みました。



湖南工業団地



日本精工(株) 石部工場



湖南省市の「木」「花」「鳥」

自然

うつくし松

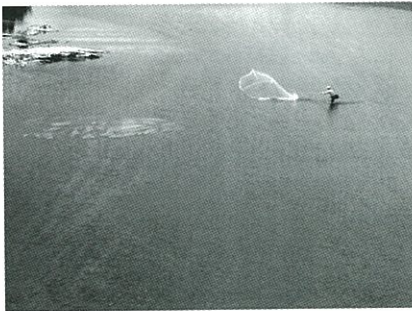
主幹がなく、根元から幹がいくつにも分かれ、全体はつりあいのとれた傘型をしています。日本ではここにしかない松で、国の天然記念物に指定されています。



うつくし松自生地

野洲川

市の中央を東西に流れる野洲川。初夏になると投網や友釣りファンで賑わいます。真夏には人々が水遊びをして涼を求める憩いの場となります。

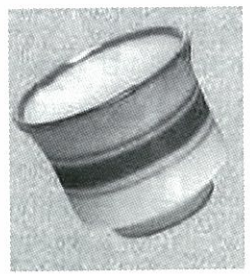


野洲川

伝統の技

近江下田焼 (旧 甲西町)

藍色をした呉須(ごす/釉薬)の鮮やかな色合いとシンプルな柄が特徴です。素朴で飽きのこない肌合いの下田焼は、そのせいか皿・急須・湯のみ茶碗などに多く使われています。



近江下田焼

石部焼 (旧 石部町)

江戸時代に京都清水から陶工を招いて始められ、今も京の伝統を生かしています。素朴な絵柄・色彩・飽きのこない風合いで、茶碗や皿などが作られています。

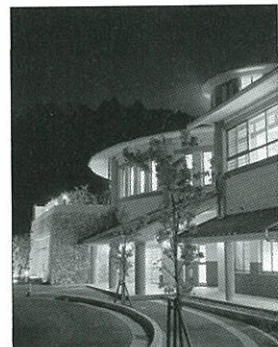


石部焼

リフレッシュ施設

十二坊温泉ゆらら

屋内には多重浴槽・バーデプール・ファミリー浴室・トレーニング室・レストランを備え、屋外にはすこやかな森、森林浴トリムコースなどがあり、自然を楽しむことができます。子供か



十二坊温泉ゆらら

ら大人まで気軽に利用できる、心と体の健康づくりスポットです。

じゅらくの里

爽やかな自然に囲まれた丘陵にある健康・福祉ゾーン。四季の花々が香るふれあいの広場には大型遊具が設置され、癒しのオアシスです。



じゅらくの里

産業と経済

新市発足に伴い工業会が統合

湖南市発足に伴い、旧石部町・甲西町それぞれで組織されていた工業会を統合し、湖南市工業会を設立。ものづくり基盤を確立し、地域社会の発展に寄与するため、結束・共存・企業としての社会的貢献を事業目的に103社（製造事業所）が結集しました。

近江東海道の紹介

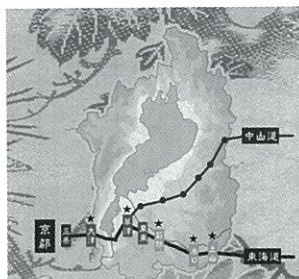
江戸時代へタイムスリップ！

近江東海道

近江を代表する街道として、まずあげられるのが東海道です。三重県境の鈴鹿峠から五十三次の49番目土山宿へ、そして50番目水口宿、51番目石部宿、昔をしのばせる旧和中散本舗のある栗東を通り、中山道の分岐であった52番目の草津宿へと続き、『木曾殿と背中合わせの寒さかな』と詠まれた芭蕉が眠る義仲寺のある53番目大津宿と、近江東海道はこの5宿(5市)を走ります。

鈴鹿馬子唄に、また、広重の絵に名残をとど

めるこの道は、松尾芭蕉が訪れたロマンの道でもあります。いにしえをしのぶ旅人をやさしく迎えてくれる、そんな東海道です。



近江東海道

土山宿（現 甲賀市） 49番目宿

土山宿は険しい鈴鹿峠を行き来する旅人の休泊場所として賑わいました。本陣や旅籠の並ぶ町並みは現在も残されています。周辺には垂水斎中央頓宮跡や田村神社があり、土山茶など名産品も多くあります。



東海道五十三次 土山「春の雨」（上）と土山本陣（下）

水口宿（現 甲賀市） 50番目宿

水口は中世から伊勢参宮道の町としてひらけ、江戸時代は宿場町として、また自然の湧水の堀をめぐらせた碧水城の別名をもつ水口城の城下町として栄えました。

周辺には小堀遠州作と伝わる蓬采庭園がすば

らしい大池寺、水口岡山城跡など多くの史跡があります。また毎年4月20日に行われる水口曳山祭は多くの観光客で賑わいます。

石部宿（現 湖南省） 51番目宿

野洲川と山々の美しい風景が望める湖南省の西部に位置しますが、最盛期には216件の商家、62軒の旅籠が軒を連ねていました。当時は伊勢路への街道として賑わっていました。約36キロある京都・石部間は京都を朝出発すると、夕方ごろ到着することから“京立ち石部泊まり”と言われていました。

周辺には『常楽寺』『長寿寺』の国宝・重文群のほか、吉姫神社（女神様）と対となる吉御子神社（男神様）が地域民の安心安全を見守っています。



吉御子神社



石部例大祭

石部宿の再現

雨山文化運動公園内にあり、関所をくぐるとそこは江戸時代に賑わった東海道石部宿…。当時に再現した旅籠・茶屋・商屋などが建ち並び、

まるで江戸時代へ時間旅行した気分が満喫できます。



夢街道「石部宿まつり」

ぶらりこなん

湖南三山めぐり

合併効果の一つとして観光資源の活用と心の醸成

湖南省発足を機に“街づくりツール”の一つとして、旧両町に存在する古刹『常楽寺』『長寿寺』『善水寺』の国宝・重文群の建物や仏像めぐり。秋には、それぞれの境内で鮮やかに彩る紅葉の美しさを観光資源としての売込み。また、来場される方々を地域でもてなすことによる連帯感の醸成など、旧両町の垣根を越えた取組みも始まりました。

歴史の深さと四季折々の美しさに心洗われる古刹めぐり

常楽寺（旧 石部町）

奈良時代に金肅菩薩良弁僧正が、元明天皇の勅命により建立したと伝えられています。本堂と三重塔は国宝に指定されており、ともに室町時代の初期に再建されたもの。本尊の木造千手観音坐像（秘仏）をはじめ、多くの文化財を保有しています。



二十八部衆（国指定重要文化財）

長寿寺 (旧 石部町)

奈良時代後期に聖武天皇の勅願により金剛菩薩良弁僧正によって建立されたそうです。国宝の本堂は一度消失しましたが、鎌倉時代に再建されました。かつては常楽寺と同様に三重塔がありましたが、織田信長によって安土城山中の信長の菩提寺である摠見寺へ移築され、現在は重文に指定されています。阿弥陀如来坐像など多くの文化財を安置しています。



長寿寺



善水寺



阿彌陀如来像



釋迦如来像



梵天 (上)、四天王 (多聞天、広目天) (中)、十二神将 (下)



帝釈天 (上)、四天王 (持国天、増長天) (中)、十二神将 (下)

善水寺 (旧 甲西町)

中大兄皇子 (天智天皇) を父にもつ元明天皇 (阿閉皇女) の時代に草創され、仏教大師最澄によって中興されました。781年に即位した垣武天皇の病が当時の霊水で平癒されたので、寺号を賜ったと言われています。現在もその清水は絶えることなく、湧き出しております。宮殿風の趣をもつ壮麗な本堂は、国宝に指定されています。



不動明王 (左)、兜跋毘沙門天 (中)、増長天 (右)

(日本精工株式会社 石部工場 石原 善春)